

❖ テキスト目次

Lesson 1	AI時代にあえて翻訳を学ぶべき理由	1
	コラム) プロの翻訳者に求められる能力	5
Lesson 2	頭から訳す	7
	コラム) 頭から訳すテクニックは速読や通訳にも生かせる	11
Lesson 3	最適な訳語を見つける	13
	コラム) プロ翻訳者が使っているオンライン辞書	17
添削課題 01		19
Lesson 4	自然な日本語に訳す(1)	21
Lesson 5	自然な日本語に訳す(2)	25
	コラム) やりなおし英文法のすすめ	29
Lesson 6	助動詞	31
	コラム) フリーランス翻訳者の仕事と法的責任	36
添削課題 02		37
Lesson 7	文章の流れを考える	39
	コラム) コロン、セミコロン、ダッシュをどう訳す？	43
Lesson 8	数の表現	45
	コラム) 肩こりや腰痛を防ぐ作業環境	49
Lesson 9	売れる翻訳とは	51
	コラム) プロが使う翻訳支援ツール	55
添削課題 03		57
添削課題 04		59

Lesson 1 AI 時代にあえて翻訳を学ぶべき理由

▶AIが驚異的な進化を遂げ、機械翻訳や生成AIで原文の意味はある程度わかるのに、あえて翻訳の基礎を学ぶべきなのでしょうか？と質問されることがあります。そんなときは、「今こそ学ぶべきです！」と答えます。

AIを使いこなし、AIと共存共栄するためです。

▶「機械翻訳は人の翻訳ほど、文脈や専門用語を考慮できない」と以前は言われていましたが、それはもう昔の話。昨今のAIは人のように文脈を把握し、膨大なデータから最適な専門用語や固有名詞を見つけてきます。構文の理解力は、もはや人を超えています。

ただし、人が誤訳するようにAIも誤訳しますし、さすがに行間を読んだり、原文にない情報を補足したりするのはまだ得意ではありません(これから、どんどんうまくなっていくはずですが…)

▶そのため、機械翻訳にかけた訳文のミスを修正して、より自然で正確な表現に仕上げる「ポストエディット(MTPE: Machine Translation Post Edit)という翻訳ジャンルの需要が拡大しています。

一方で、人にしかできないジャンルとして、心に刺さる訳を訴求するマーケティング翻訳や「トランスクリエーション」(TranslationとCreationを組み合わせた造語。コピーライティングに近いイメージ)の重要性も増しています。

▶これから、ポストエディットやトランスクリエーションを主戦場にする翻訳者の方にとっても、企業人として機械翻訳や生成AIを活用する方にとっても、アウトプットされた訳文が正しいかどうかを見極める力は必要になります。この力をつけるには、やはり翻訳の基礎力を身に付けておかなければなりません。

ぜひ基礎を固めて、機械翻訳やAIを使いこなす技術を身に付けてください。

まずは、機械翻訳と人の翻訳の違いをご覧ください。

[1-1] Absence sharpens love, presence strengthens it.

(ある歴史家の名言)

機械翻訳(MT):

不在は愛を研ぎ澄まし、存在は愛を強める。

↓

人の翻訳:

会えないと思いが募り、共にいれば愛が深まる。

【解説】

これは実務文ではありませんが、今はビジネス分野の翻訳でも、このくらい豊かな表現力が求められます。英語は名詞、日本語は動詞を核にした表現が多いため、absence(不在)を「会えないと」、presence(存在)を「共にいれば」というように品詞を変換することで、自然な日本語に上げます。

[1-2] You have to translate strategic requirements into clear goals, considering how activities within your area of responsibility can deliver the maximum efficiency in the big picture context.

(マネージャー研修の資料)

機械翻訳(MT):

責任範囲内の活動が全体像の中で最大限の効率性を発揮する方法を考慮しながら、戦略的要件を明確な目標に翻訳する必要があります。

↓

人の翻訳:

状況を大局的にとらえ、担当業務を最大限に効率化する方法を考慮しながら、戦略的な要件を明確な目標に落とし込む必要があります。

【解説】

機械翻訳も構文解釈は正確で、雰囲気は伝わりますが、何を言おうとしているのかがハッキリしません。「目標に翻訳する」というコロケーションにも違和感があります。

そこで、原文の真意を汲み取って回りくどい言い回しを簡潔にまとめ、translateの訳を「目標」と相性の良い「落とし込む」という表現にすれば、ぐっと読みやすくなります。

[1-3] Barrel barrel on the ground, who's the smoothest wine of all?

(ワインブランドのSNS用コピー)

機械翻訳(MT):

地面に置かれた樽、一番滑らかなワインはどれ？

↓

人の翻訳:

樽よ樽、世界で一番まろやかなワインはどれ？

【解説】

機械翻訳では何を言っているのか、よくわかりませんが、実はこの原文はグリム童話『白雪姫』で継母が魔法の鏡に向かって言ったセリフ「Mirror mirror on the wall, who's the fairest of them all?(鏡よ鏡、世界で一番美しいのは誰?)」をもじっています。

膨大なデータを駆使するAIもさすがにそこまでは突き止められなかったようですね。

[1-4] Over the past decade, we have met numerous challenges, including our ABC project.

This endeavor stemmed from our hope to study market trend, gather invaluable data,
and diversify our product range.

(会社案内の抜粋)

機械翻訳(MT):

過去10年間、当社はABCプロジェクトを含め、数多くの課題に直面してきました。この取り組みは、市場動向を調査し、貴重なデータを収集し、製品範囲を多様化したいという当社の希望から生まれました。

↓

人の翻訳:

過去10年間にわたり、当社はさまざまな難題に直面してきましたが、その一つがABCプロジェクトです。この取り組みは、市場動向を調査し、貴重なデータを収集して、製品ラインナップを多様化したいという私たちの思いから始まりました。

【解説】

機械翻訳では1文目と2文目がうまくつながりません。「・・・数多くの課題に直面してきました。この取り組みは・・・」と続くと、どの取り組み？と混乱してしまうのです。そこで、原文の語順通りに訳すことで、This endeavorがABC projectを指していることがわかるようにしました。

ご覧いただいたように、機械翻訳も相当進化していますが、まだ人ならではの翻訳が生きる局面があります。

この講座で、原文の流れを生かし、最適な訳語を見つけ、自然な日本語に訳すテクニックを身に付けて、AIに勝るスキルを身に付けましょう！

覚えておきたい用語・用法

文体について……「である」調と「ですます調」

実務文にも SNS コンテンツからプレスリリース、契約書までさまざまなジャンルがあり、それぞれに固有の文体があります。文体には大きく分けて、「である」調と、「ですます」調があります。

☞ 「である調」

語尾を「である」「する」というトーンで終わらせる文体で、堅いビジネス文書や契約書などでよく用いられます。客観的で簡潔な印象になります。

例)

- ・ 週明けの東京株式市場は、銀行株を中心に反落した。
- ・ 翻訳の基本は日本語の力である。

☞ 「ですます調」

語尾を「ですます」のトーンで締めくくる文体で、SNS コンテンツやカタログ、マニュアル、ビジネスレターに多くみられます。読み手に語りかけるような柔らかい文章になります。

例)

- ・ ご不明な点がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。
- ・ 粗食が長生の秘訣です。

たいていはクライアントや翻訳会社から文体が指定されますが、特に指定がなければ、原文のトーンに応じて判断してください。迷う場合は発注元に確認しましょう。

コラム) プロの翻訳者に求められる能力

「英語が好きだから、仕事にしたい」という思いから翻訳を志す人が多いのですが、プロの翻訳者に求められるものは、英語力だけではなく、以下の能力をバランスよく備えている必要があります。

① 英語力・日本語力

すべては、原文を正しく理解することから始まります。原文の真意を読み取り、具体的なイメージをつかまなければなりません。そのためには、英文法の基礎を理解しておく必要があります。原文の意図を読み手に正しく伝えるには、明快でわかりやすい日本語を書く力も欠かせません。毎日何気なく話したり書いたりしている日本語でも、使いこなすのは意外と難しいもの。日頃から表現者の目でさまざまな文章を眺め、言葉のセンスを磨きましょう。

② リサーチ力

よほど高度なノウハウが必要な分野でない限り、徹底的にネット検索し、関連書籍を読めば、ほとんどの専門分野は攻略できます。苦手な分野を無理に選ぶ必要はありませんが、詳しくない分野でも興味があれば、とにかく調べ、知識を蓄積していけば、いずれその道のプロになります。Googleなどの検索エンジンも賢く使いこなしてください。

③ 最新のテクノロジーを使いこなす力

これからの実務翻訳者は、ITに弱くては仕事になりません。翻訳案件で、翻訳支援ツール(CAT)や機械翻訳(MT)を活用することはすでにスタンダードとなっており、生成AIも急激に進歩しています。新しいものはどんどん取り入れましょう。闘うには、まず相手を知ることから。AIに負けないスキルを身に付けたいなら、こちらから使いこなしてやりましょう。ただし、情報漏洩のリスクがあるため、翻訳者の自己判断で実案件の原文を無料の機械翻訳等にかける行為はNGです。実案件では、翻訳会社から提供される機械翻訳を活用するのが基本です。

④ コミュニケーション力

翻訳者にとって、一番大事なのはこれかもしれません。そもそも、翻訳とはコミュニケーションを助けるための仕事。そんな仕事を志す者にとっては、あらゆるコミュニケーションが修行の場です。仕事ではもちろん、家族や友人とのメールからSNSのメッセージまで、日頃のやり取りを大切にしてください。丁寧に言葉を紡ぐ習慣がいずれ実りある仕事につながります。

おまけ)

MRI語学教育センターのコラムでも、参考になる情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.mediasoken.jp/mri-trans/column/>

Lesson 2 頭から訳す

▶「原文の語順に沿って、頭から訳す」というのは、ぜひ覚えてほしいテクニックの一つ。学校英語では、条件節を先に訳す、いわゆる「訳し返す」やり方を中心に教えますが、翻訳の現場では、頭から訳した方が、わかりやすく自然な日本語になるケースが少なくありません。

「頭から訳す」テクニックのメリット：

- ◆ 原文の流れが生きる

原文は書き手の思考や論理の流れに沿った語順になっています。日本語と英語では文の構造が異なりますが、ちょっと工夫すれば、英語の流れに沿った自然な日本語表現に上げることができます。

- ◆ 翻訳スピードが上がる

原文を行ったり来たりして、何度も読み返しながら訳す必要がないので、目線や思考の中断が少なく、翻訳作業の効率が上がります。

- ◆ 訳抜けが起こりにくい

原文の語順通りに追っていくので、文中の単語を見落とすことが少なくなり、原文と訳文の突合せチェックもより簡単・確実になります。

「頭から訳す」テクニックが向いている主なケース：

- ① before、untilがはさんである文章
- ② 結果のtoが含まれている文章
- ③ including、such as以降の例示が長い文章

注) 関係代名詞を含む文章も頭から訳すことは可能